

平成28年度年報 消化器センター内科

I. スタッフ紹介 役職・氏名・資格・専門領域など

役職： 消化器センター内科 主任部長 兼 炎症性腸疾患部門部長

氏名： **八隅 秀二郎**「専門領域：消化器内科、特に胆膵領域の診断と治療」

資格： 京都大学医学博士

京都大学医学部臨床教授

関西医科大学臨床教授

日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本消化器病学会 専門医・指導医・評議員・近畿支部評議員

日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・評議員・近畿支部評議員

日本胆道学会 指導医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医・暫定教育医

役職： 消化器センター内科 副部長

氏名： **川口 清隆**「専門領域：消化器内科、特に肝臓の診断と治療」

資格： 日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本消化器病学会 専門医

日本肝臓学会 専門医

役職： 消化器センター内科 副部長

氏名： **福永 豊和**「専門領域：消化器内科、特に肝細胞癌の診断と治療」

資格： 日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本消化器病学会 専門医・近畿支部評議員

日本消化器内視鏡学会 専門医

日本肝臓学会 専門医・指導医

日本超音波医学会 専門医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

役職： 消化器センター内科 副部長

氏名： **吉野 琢哉**「専門領域：炎症性腸疾患（IBD）」

資格： 京都大学医学博士

日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本消化器病学会 専門医・近畿支部評議員

役職： 消化器センター内科 副部長

氏名： **栗田 亮**「専門領域：消化器内科、特に胆膵疾患の診断と治療」

資格： 日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医

役職： 消化器センター内科 副部長

氏名： **山内 淳嗣**「専門領域：消化器内科、特に消化管疾患の診断と治療」

資格： 日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本内科学会総合内科専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医

平成28年度年報 消化器センター内科

役職: 消化器センター内科 医員

氏名: **工藤 寧**「専門領域:消化器内科、特に胆膵疾患の診断と治療」

資格: 日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医

役職: 消化器センター内科 医員

氏名: **渡辺 昌樹**「専門領域:消化器内科一般」

資格: 日本内科学会総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医

日本肝臓学会 専門医

役職: 消化器センター内科 医員

氏名: **西村 聡**「専門領域:消化器内科一般」

資格: 日本内科学会総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医

役職: 消化器センター内科 医員 (平成 29 年 3 月退職)

氏名: **伊藤 嵩志**「専門領域:消化器内科一般」

資格: 日本内科学会総合内科専門医

役職: 消化器センター内科 医員

氏名: **渡邊 幸太郎**「専門領域:消化器内科一般」

資格: 日本内科学会総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医

役職: 消化器センター内科 医員 (平成 28 年 4 月着任)

氏名: **森 義治**「専門領域:消化器内科一般」

資格: 日本内科学会総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医

役職: 消化器センター内科 医員

氏名: **菌 誠**「専門領域:消化器内科一般」

資格: 日本内科学会総合内科専門医

役職: 消化器センター内科 シニアレジデント医師

氏名: **山川 康平**

秋山 慎介

山下 大生

尾松 万悠紀 (平成 28 年 4 月着任)

II. 診療・治療の特徴

【はじめに】

平成 28 年度の消化器センター内科（スタッフ 13 名、レジデント 4 名の合計 17 名）は、年間 14,533 件の内視鏡検査を中心に活動しました。

当院では、「断らない医療」をモットーに吐下血に対する緊急内視鏡だけでなく、膵胆道系および肝疾患に対しても 24 時間体制で対応することを心がけており、年間 9,000 台以上救急車で搬送される地域医療に全面的に貢献するように心がけております。特に、担癌患者に対しては安心して通院治療を継続できるように、緊急時の受入れ体制は言うまでもなく、在宅を中心に癌と戦っていくための環境づくり（介護保険の申請など地域連携を通じた看護サポート体制作り）も非常に大事なものと考えております。

また、当院は教育機関でもあり、将来幅広く消化器の知識（消化管、炎症性腸疾患、肝臓、胆膵）に対応できる消化器内科専門医を育てる為に、レジデントに対して各手技（US, EGD, CS, 肝生検, RFA, Angio, EUS, ERCP, ダブルバルーン、カプセル内視鏡）をより効率的に習得できるように各専門分野の手技に対してマニュアルを作成し指導するようにしています。今後は、より高い臨床技術を提供するために各種技術習得の教育方法の確立、臨床研究に即したデータベースの構築を軸に臨床を行って行きたいと考えています。具体的な試みとしては ESD の技術を習得するために豚の胃や大腸を用いての実習を年二回行っています。2016 年度は地域で内視鏡を頑張っている開業医の先生がたにも実際の ESD がどのように行われるかを体験していただきました。

臨床研究としては、学会活動として年間 41 演題（総会 21、地方会 20）を発表し、英文論文が 10 本、和文論文が 1 本掲載されました。また、この数年地道に早期膵癌を発見する活動に関して付近の医師会の先生方と勉強会をとおした活動が週刊文春に掲載されました。以下に各部門の活動状況の年報を記載します。

(消化器センター内科 延入院患者数:21,995 人 延外来患者数:31,691 人)

【消化管部門】

○ 上部消化管(食道および胃)

通常の上部内視鏡検査から拡大機能のある内視鏡を使用し、病変の早期発見、正確な診断に努めています。健診では経鼻内視鏡を使用し、より苦痛の少ない検査を心掛けています。平成 28 年度の上部消化管内視鏡検査の総数は 8840 件でした。処置内視鏡は、食道 ESD が 15 件、胃 ESD が 92 件、食道ステント留置術が 2 件、胃十二指腸ステント留置術が 6 件、胃瘻造設が 17 件でした。

また切除不能・再発胃癌の患者さまに対しては、ティーエスワン＋シスプラチン／オキサリプラチン療法を一次治療とし、二次治療にはイリノテカン・パクリタキセル・ラムシルマブなどの薬剤を組み合わせた化学療法を行っています。

○ 小腸

平成 28 年度はダブルバルーン小腸内視鏡検査 34 件、カプセル内視鏡検査 38 件を施行しました。平成 24 年からはパテンシーカプセルを導入し、狭窄が疑われるクローン病症例ではカプセル内視鏡を行う前にパテンシーカプセルによる小腸の通過性を確認しております。

小腸癌に対しては手術や化学療法など集学的治療を行っており、また十二指腸乳頭部腫瘍については、内視鏡的切除術（パピレクトミー）を積極的に行っています。

○ 大腸

通常の大腸内視鏡検査は細い内視鏡用いて行い、鎮静剤などを併用し、苦痛の少ない検査を心掛けています。平成 28 年度の下部消化管内視鏡検査の総数は 3,678 件でした。処置内視鏡は大腸ポリープ切除術が 1,212 件、大腸 ESD が 42 件、大腸ステント留置術が 19 件で

した。臨床研究として大腸憩室出血に対して、EBL(バンド結紮術)による止血術を積極的に行っています。

また進行大腸癌の患者さまに対しては、分子標的治療薬(ベバシズマブ、セツキシマブ、パニツムバブ、ラムシルマブなど)を併用した化学療法を行っています。

○ 緊急内視鏡

24時間体制で緊急内視鏡の受け入れをしており、平成28年度の緊急内視鏡の総数は274件で、そのうち止血処置を行った症例は74件でした。ほぼ全ての症例で内視鏡的に治療を完了しています。

【肝臓部門】

○ 肝癌治療

平成28年は年間76例に経皮的穿刺治療(経皮的エタノール注入療法(PEIT)、ラジオ波焼灼療法(RFA))を施行しました。適応は原則Stage 1ではRFA単独治療を第一選択、それを超えるものについても侵襲度、治療効果、合併症を勘案し肝動脈化学塞栓療法(TACE)を併用しながら3cm 3個程度までを適応としています。

腹部超音波検査も通常のBモードのみでは腫瘍の同定が困難な場合(再生結節・dysplastic noduleが多発した状態、TACE・RFAの治療痕近傍に再発した場合など)ではRVS(real-time virtual sonography)を使用しUSと同断面のCT/MRのMPR像(仮想US像)をリアルタイム表示することで目的の腫瘍を同定します。さらに必要があれば超音波造影剤(ソナゾイド)を使用し、腫瘍のviabilityの確認には血管相による腫瘍濃染を、存在部位の確認には実質相(Kupffer image)を参照し造影後ただちにRFA治療を行っています。

合併症としては一過性の発熱、肝機能障害、腹水貯留は経験していますが、いずれも保存的治療で軽快し重篤な合併症は経験していません。

転移性肝腫瘍については十分なエビデンスはありませんが、原発巣がコントロールされ2cm以下程度のものについてはインフォームドコンセントのうえでRFAを施行しています。

TACEは116例に施行しました。抗がん剤はfirst lineにエピルビシン、マイトマイシンの併用、second lineにはシスプラチンまたはミリプラチンを使用しています。治療効果不十分の症例ではBalloon閉塞下に腫瘍への薬剤集積性を高める工夫(B-TACE)やエピルビシンを含浸させた抗癌剤溶出性ビーズによる治療(DEB-TACE)も行っています。

TACEの効果が十分でないと判断した場合にはリザーバシステムを留置し持続動注療法に移行しています。さらに肝外転移が出現した場合には全身状態・肝予備能を考慮し分子標的薬ソラフェニブを投与しています。

○ 肝炎治療

肝硬変への進展抑制、肝発がん予防の観点から、慢性肝炎の制御は重要ですが、近年の抗ウイルス療法の急速な進歩によりウイルス性肝炎は完全制御の時代に入りつつあります。当院でのB型肝炎に対する核酸アナログ投与例は214例でほぼ全ての症例で非活動性の状態にコントロールされています。若年者ではPEGインターフェロンを使用することにより長期的にはdrug freeの状態にコントロール出来るよう治療を試みています。

C型肝炎治療は2014年9月以降インターフェロンベースの治療からDAA(Direct-acting Antiviral Agent)を2剤使用するいわゆるインターフェロンフリー治療に急速に移行しました。炎症・線維化の程度、発癌のリスク、腎機能、心機能、HCV薬剤耐性を考慮し、治療薬の選択・適応を考慮しながら治療しています。不成功となるケースは少ないですが、あらかじめ治療前血清を保存し、薬剤耐性変異の解析を行い次の治療の参考にしています。

これまでgenotype 1型に対してはダクラタスビル(ダクルインザ)/アスナプレビル(スンベプラ)、レジパスビル/ソホスブビル(ハーボニー)、パリタプレビル/オムビタスビル(ヴィキラックス)、エルバスビル(エレルサ)/グラゾプレビル(グラジナ)を使用し97.4%(151/155)の奏効率となっています。

【胆膵部門】

当院では膵・胆道癌の早期発見を目指し、日々精度の高い画像診断と内視鏡治療に力を入れています。特に大阪北エリアの4医師会(北区、大淀、都島区、東淀川区)と4総合病院(北野、済生中津、大阪市立総合医療センター、淀川キリスト教病院)が中心となって『大阪市北エリア早期膵癌プロジェクト』を展開し、平成27年からは大阪赤十字病院も参加しております。また、胆膵処置困難症例も多数ご紹介いただいています。症例数は増加傾向で、関西でも指折りの症例数を誇っています(平成28年度の胆膵内視鏡総件数1,325件)。

内視鏡治療としては、胆管結石治療、慢性膵炎に対するステント治療、乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除術、胆管狭窄に対するプラスチックステントや金属ステントを用いた胆管ステント治療、感染性膵仮性嚢胞に対する超音波内視鏡下ドレナージ術、超音波内視鏡下胆管・膵管ドレナージ術など、最先端の治療を行っています。

ERCPでは卒後3-5年目のレジデントが先発し(各々年間約100例前後のERCPを経験しています)、10分以上経っても胆管挿管できない場合に上級医に交代するようにし、レジデントの教育に力を入れています。平成27年度の胆管挿管目的の初回乳頭症例190例において、最終の胆管挿管成功率は98.9%(188例/190例:挿管不能の2例の内訳は胃癌術後胆管炎症例のDB-ERCPでの胆管挿管不能1、乳頭部腫瘍の内視鏡切除前検査の胆管挿管不能1)と高率で、レジデントの胆管挿管率は1年目28.2%、2~3年目に56%と、学年が上がるほど挿管率が上昇しております。

悪性疾患につきましては、術前の各種画像診断で臨床病期を決定した後に外科とのカンファレンスで治療方針を決定し、適切な治療を行っています。なかでも切除症例につきましては切除標本の膵管・胆管造影を行い、術前画像と病理組織を対比する検討会を超音波技師・内科・外科・放射線科合同で毎週行っており、画像診断能力の向上に努めています。当院主導の臨床試験の他、全国で行っている多施設共同臨床試験にも複数参加しています。

〈平成28年度の診療実績〉

ERCP関連手技642件、うち内視鏡的胆道ドレナージ術(EBD)112件(EMS34、PS78)、内視鏡的膵管ドレナージ術197件(EPS78、ENPD119)。経皮的胆道処置(PTCDなど)64件、超音波内視鏡(EUS)検査(観察)554件(ラジアルEUS445、コンバックスEUS109)、EUS-FNA113件、Interventional EUS16件

〈内視鏡装置〉

側視鏡:JF-260V、TJF-260V、TJF-M20、経口胆道鏡:CHF-B260、経皮的胆道鏡:CHF-BP30、超音波内視鏡:GF-UE260、GF-UCT260、超音波内視鏡観測装置:EU-ME2、小腸ダブルバルーン内視鏡:EN-450BI5

【炎症性腸疾患(IBD)部門】

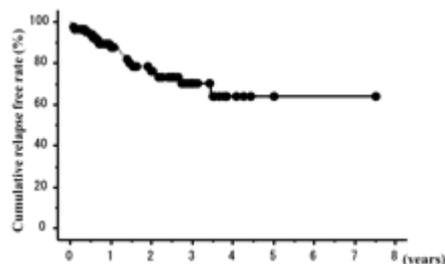
潰瘍性大腸炎、クローン病に最新の治療を行うと共に、全国多施設共同臨床研究にも参加して最新の情報を提供するように努めております。

当院では、軽症から中等症の活動性を有する潰瘍性大腸炎に対し、5-ASA製剤やステロイド製剤の他、血球成分除去療法を積極的に導入することにより比較的副作用の少ない治療法による寛解導入を目指しております。一方、重症症例に対しては、タクロリムスなどの免疫抑制剤やTNF- α 抗体製剤などの治療法を用い、大腸全摘術を回避するよう努めております。生物学的製剤の登場により、IBD患者の予後、QOLは大幅に改善しましたが、その一方で難治症例の出現や医療費の高騰など様々な問題が挙がっております。そこで既存の治療を強化することにより、過度な治療強化を回避し、難治症例の発生を抑えることができないか検討いたしました。まだ後ろ向きな検討ではありますが、軽症または免疫調節剤併用しているメサラジン製剤抵抗の潰瘍性大腸炎患者において、サラゾピリン投与にて高い

寛解導入率が認められ、さらに注腸療法や免疫抑制剤から離脱することが可能でした (11th Congress of ECCO, Amsterdam にて発表)。今後も新規治療薬だけでなく既存の治療薬をうまく使いこなすことで、患者さんだけでなく社会に貢献できるよう努める所存です。

クローン病については日本独特の厳格な栄養療法ではなく、ステロイドの他、免疫抑制剤や抗 TNF- α 抗体製剤を積極的に用い、できる限り日常生活を続けながら外来で治療できる体制をとっています。

最近の国内外の報告によると、炎症性腸疾患の臨床症状の改善を図るだけでなく、粘膜治癒が非常に重要であると報告されています。当院において粘膜治癒が得られた潰瘍性大腸炎症例の再燃率を検討した結果、粘膜治癒後1年、3年、5年の寛解維持率は87.9%、70.2%、63.8%でした (10th Congress of ECCO, Barcelona にて発表)。従来既報通り粘膜治癒後の長期予後は良好ですが、決して無再燃ではありません。そこで‘完全’粘膜治癒を目指した寛解維持療法の構築が必要であると我々は考え、多施設共同臨床研究を立ち上げ模索検討していく所存です。



・現在参加している多施設共同臨床研究について

- 1: インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究 Further maintenance of remission for a year after infliximab withdrawal in ulcerative colitis treatment: a multicenter, controlled trial in Japan (HAYABUSA study)
- 2: 潰瘍性大腸炎の寛解維持に対する血球成分除去療法の有効性の検討 (CAPTAIN study) 3: ステロイド NAIVE 活動期 UC 患者に対する GMA の有効性について～Multicenter Study～
- 4: 炎症性腸疾患患者に対するヘリコバクター・ピロリ除菌の安全性に関する後方視的検討 Safety of H.pylori eradication in IBD Retrospective Japanese multicenter study (SPIRAL study)
- 5: クローン病内瘻に対する抗 TNF- α 抗体製剤治療成績の検討

Ⅲ. 研究

主催研究会

第6回 大阪胆膵内視鏡ライブ(2017/2/18;北野病院 きたのホール)

ミニレクチャー: 愛知県がんセンター中央病院 原 和生 先生

ライブ: ERCP, EUS, EUS-FNA など、2~3 症例

術者: 愛知県がんセンター中央病院 原 和生 先生

学会発表

- 1 吉野琢哉、八隅秀二郎 5-ASA 治療強化における Salazosulfapyridine の有用性
第 102 回
日本消化器病学会総会 2016/4/21-23 (東京)
- 2 栗田 亮、工藤 寧、八隅秀二郎 当院における肝機能が正常な胆管癌の検討
第 91 回日本消化器内視鏡学会総会 2016/5/12-14 (東京)
- 3 西村 聡、河野孝一郎、八隅秀二郎 胃炎の京都分類に基づく除菌前後の内視鏡所見の変化についての検討
第 91 回日本消化器内視鏡学会総会
2016/5/12-14 (東京)
- 4 渡邊幸太郎、河野孝一郎、秋山慎介、山下大生、河路光介、山川康平、菌 誠、原田威徳、伊藤嵩志、西村 聡、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、栗田亮、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 胃 ESD 患者における H.pylori 自然消退後の異時性癌の発生に関する比較検討
第 91 回日本消化器内視鏡学会総会
2016/5/12-14 (東京)
- 5 菌 誠、秋山慎介、山下大生、河路光介、山川康平、原田威徳、渡邊幸太郎、伊藤嵩志、西村 聡、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院での慢性膵炎・膵石に対する治療の現状
第 91 回日本消化器内視鏡学会総会 2016/5/12-14 (東京)
- 6 山川康平、栗田 亮、秋山慎介、山下大生、菌 誠、伊藤嵩志、西村 聡、渡邊幸太郎、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 内視鏡的経鼻膵管ドレナージチューブ留置の現状に関する検討
第 91 回日本消化器内視鏡学会総会 2016/5/12-14 (東京)
- 7 車 紗織、山下大生、西村 聡、栗田 亮、福永豊和、八隅秀二郎 健診で前年との相違を指摘し早期発見しえた肝門部胆管癌の 1 例
第 41 回日本超音波検査学会学術集会 2016/6/10-12 (宮城)
- 8 吉野琢哉、八隅秀二郎 炎症性腸疾患診療における内視鏡 index の有用性について-自験例より-第 7 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2016/7/9-10 (京都)
- 9 伊藤嵩志、吉野琢哉、菌 誠、八隅秀二郎 出血を繰り返す単純性潰瘍に対してインフリキシマブが著効した一例
第 7 回日本炎症性腸疾患学会学術集会
2016/7/9-10 (京都)
- 10 西村 聡、吉野琢哉、藤川喜貴、渡辺昌樹、八隅秀二郎 帯状疱疹ウイルス感染に伴い潰瘍性大腸炎の増悪を認めた一例
第 7 回日本炎症性腸疾患学会学術集会 2016/7/9-10 (京都)

平成28年度年報 消化器センター内科

- 1 1 菌 誠、Takuya Yoshino,Shujiro Yazumi Efficacy and safety of sulphasalazine for patients with ulcerative colitis refractory to mesalazine AOCC2016 2016/7/7-9 (京都)
- 1 2 Hiroaki Terajima,Akira Kurita,Yasushi Kudo,Shujiro Yazumi,Akira Mori The clinical impact of margin status on recurrence and survival after curative intent surgery for pancreatic ductal adenocarcinoma 第47回日本膵臓学会大会 2016-8/4-7 (宮城)
- 1 3 工藤 寧、伊藤嵩志、栗田 亮、八隅秀二郎 当院における ERCP での胆管挿管率の現状-レジデント教育の方法を中心に- 第52回日本胆道学会学術集会 2016/9/29-30 (横浜)
- 1 4 寺嶋宏明、内田洋一朗、工藤 寧、栗田 亮、八隅秀二郎 広範囲肝切除および胆道再建を要する胆道癌の治療成績向上をめざした nonhigh volume center での取り組み 第52回日本胆道学会学術集会 2016/9/29-30 (横浜)
- 1 5 Atsushi Yamauchi,Takuya Yoshino,Satoshi Nisimura,Kotaro Watanabe, Shujiro Yazumi, The Efficacy and Safety of Endoscopic Band Ligation for Colonic Diverticular Hemorrhage ACG2016 2016/10/14-19 (USA)
- 1 6 Satoshi Nishimura,Takuya Yoshino,Kotaro Watanabe,Atsushi Yamauchi,Shujiro Yazumi, Usefulness of Endoscopic Findings for Predicting the Risk of Gastric Cancer after Eradication of Helicobacter pylori ACG2016 2016/10/14-19 (USA)
- 1 7 Kohei Yamakawa,Akira Kurita,Shujiro Yazumi Risk Factors for Non-occlusion Cholangitis After Metal Stent Insertion in Patients with Malignant Distal Biliary Obstruction ACG2016 2016/10/14-19 (USA)
- 1 8 吉野琢哉、Makoto Sono,Shujiro Yazumi Efficacy of sulphasalazine for patients with ulcerative colitis refractory to mesalazine APDW2016 2016/11/2-5 (神戸)
- 1 9 山川康平、Takuya Yoshino,Shujiro Yazumi Efficacy of immunosuppressive therapy for steroid-resistant Cronkhite-Canada syndrome; two case reports APDW2016 2016/11/2-5 (神戸)
- 2 0 山下大生、Successful Transanal Removal of Rectal Foreign Bodies APDW2016 2016/11/2-5 (神戸)
- 2 1 渡辺昌樹、山下大生、秋山慎介、山川康平、河路光介、原田威徳、菌 誠、渡邊幸太郎、西村 聡、伊藤嵩志、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、河野孝一朗、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院におけるレディパスビル・ソフォスブビル配合剤の使用経験 JDDW2016 2016/11/3-6 (神戸)

平成28年度年報 消化器センター内科

- 2 2 渡邊幸太郎、河野孝一郎、八隅秀二郎 胃 ESD におけるアプローチ困難例に対する multi-bendingscope の有用性 日本消化器内視鏡学会近畿支部第 96 回支部例会 2016/6/11 (京都)
- 2 3 山川康平、栗田 亮、秋山慎介、山下大生、菌 誠、伊藤嵩志、西村 聡、渡邊幸太郎、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 Rokitansky-Aschoff 洞から漿膜下層に微小浸潤を来した胆嚢腺筋腫症合併胆嚢癌の 1 例 日本消化器内視鏡学会近畿支部第 96 回支部例会 2016/6/11 (京都)
- 2 4 山下大生、栗田 亮、尾松万悠紀、秋山慎介、山川康平、菌 誠、伊藤嵩志、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 腭仮性嚢胞を伴う急性腭炎を契機に発見された Stage I 腭癌の一例 日本消化器内視鏡学会近畿支部第 96 回支部例会 2016/6/11 (京都)
- 2 5 吉野琢哉、八隅秀二郎 5-ASA 治療強化における Salazosulfapyridine の有用性 日本消化器病学会近畿支部第 105 回例会 2016/9/17 (大阪)
- 2 6 渡辺昌樹、尾松万悠紀、山下大生、秋山慎介、山川康平、菌 誠、森 義治、渡邊幸太郎、西村 聡、伊藤嵩志、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院におけるレジパスビル・ソホスブビル配合剤の使用経験 日本消化器病学会近畿支部第 105 回例会 2016/9/17 (大阪)
- 2 7 伊藤嵩志、栗田 亮、工藤 寧、八隅秀二郎 当院における ERCP の胆管挿管の現状-レジデント教育の方法を中心に -日本消化器病学会近畿支部第 105 回例会 2016/9/17 (大阪)
- 2 8 菌 誠 日本消化器病学会近畿支部 第 105 回例会 2016/9/17 (大阪)
- 2 9 森 義治、栗田 亮、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、山川康平、菌 誠、伊藤嵩志、西村 聡、渡邊幸太郎、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 特異的な所見を呈した IgG4 関連疾患の 1 例 日本消化器病学会近畿支部第 105 回例会 2016/9/17 (大阪)
- 3 0 秋山慎介、尾松万悠紀、山下大生、山川康平、菌 誠、伊藤嵩志、西村 聡、渡邊幸太郎、森 義治、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 クエン酸マグネシウム内服後、高マグネシウム血症を生じた 2 例 日本消化器病学会近畿支部第 105 回例会 2016/9/17 (大阪)
- 3 1 尾松万悠紀 日本消化器病学会近畿支部 第 105 回例会 2016/9/17 (大阪)
- 3 2 谷崎智史、菌 誠、飯森 啓、伊藤嵩志、山内淳嗣、八隅秀二郎 急性虫垂炎に続発したと考えられる門脈炎の 1 例 第 213 回日本内科学会近畿地方会 2016/9/24 (大阪)

平成28年度年報 消化器センター内科

- 3 3 吉野琢哉、松浦 稔、河南智晴、仲瀬裕志、粉川隆文 潰瘍性大腸炎関連腫瘍に関する highrisk 因子の京滋多施設共同検討-CAPITALstudy- 日本消化器内視鏡学会近畿支部第 97 回支部例会 2016/11/26 (京都)
- 3 4 山川康平、栗田 亮、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、菌 誠、伊藤嵩志、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎
超音波内視鏡下穿刺吸引生検術で診断し得た非典型的な肝尾状葉腫瘍の 1 例
日本消化器内視鏡学会近畿支部第 97 回支部例会 2016/11/26 (京都)
- 3 5 山下大生、尾松万悠紀、秋山慎介、山川康平、菌 誠、渡邊幸太郎、伊藤嵩志、森 義治、西村 聡、工藤 寧、渡辺昌樹、山内淳嗣、栗田 亮、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎
内視鏡的除去が困難であり開腹下摘出術を施行した柿胃石の一例 日本消化器内視鏡学会近畿支部第 97 回支部例会 2016/11/26 (京都)
- 3 6 飯森 啓、栗田 亮、菌 誠、西村 聡、尾松万悠紀、山下大生、秋山慎介、山川康平、森 義治、渡邊幸太郎、伊藤嵩志、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎
総胆管拡張症術後の巨大肝内結石に対して直接胆道鏡下電気水圧碎石術 (EHL) が有用であった 1 例 日本消化器内視鏡学会近畿支部第 97 回支部例会 2016/11/26 (京都)
- 3 7 藤田理奈、栗田 亮、山川康平、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、菌 誠、伊藤崇志、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎
内視鏡的ドレナージ術に不応であった被包化膿壊死に対し内視鏡的ネクロセクトミーが奏効した 1 例 日本消化器内視鏡学会近畿支部第 97 回支部例会 2016/11/26 (京都)
- 3 8 岩野光佑、栗田 亮、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、菌 誠、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎
急性膵炎を発症し、超音波内視鏡下穿刺吸引法にて診断し得た異所性膵の一例
日本消化器内視鏡学会近畿支部第 97 回支部例会 2016/11/26 (京都)
- 3 9 工藤 寧、栗田 亮、伊藤嵩志、八隅秀二郎 当院における超音波内視鏡ガイド下膵管ドレナージの治療成績の検討 日本消化器病学会近畿支部第 106 回例会 2017/2/25 (大阪)
- 4 0 秋山慎介、栗田 亮、尾松万悠紀、山下大生、山川康平、菌 誠、伊藤嵩志、西村 聡、渡邊幸太郎、森 義治、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎
分枝型 IPMN 経過観察中に由来浸潤癌が出現し、外科切除を行った 1 例 日本消化器病学会近畿支部第 106 回例会 2017/2/25 (大阪)

平成28年度年報 消化器センター内科

- 4 1 尾松万悠紀 CYP3A5 の遺伝子多型を有した難治性潰瘍性大腸炎の 1 例 日本消化器病学会近畿支部第 106 回例会 2017/2/25 (大阪)
- 4 2 秋山慎介、尾松万悠紀、山下大生、山川康平、菌 誠、伊藤嵩志、西村 聡、渡邊幸太郎、森 義治、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、吉野琢哉、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 クエン酸マグネシウム内服後、高マグネシウム血症を生じた 2 例 第 39 回京大消化器内科関連病院症例検討会 2016/6/4(兵庫)
- 4 3 吉野琢哉、八隅秀二郎 IBD 診療における内視鏡 index の有用性について ～自験例より～ 第 7 回日本炎症性腸疾患研究会 2016/7/9-10 (京都)
- 4 4 工藤 寧 胃 第 7 回大阪 FNA-Club 2016/7/2 (大阪)
- 4 5 渡邊幸太郎、市川一仁、藤盛孝博、石井正之、西村 聡、伊藤崇志、山内淳嗣、八隅秀二郎 症例からみた大腸癌取り扱い規約第 8 版の病理組織診断上の問題点 第 85 回大腸癌研究会 2016/7/1 (大阪)
- 4 6 吉野琢哉 クロウン病における IL-34 の役割について 第 15 回研究所研究発表会 2016/7/16 (大阪)
- 4 7 吉野琢哉 北野病院における IBD 診療について—AZA/6MP を中心に—IBD ミーティング 2016/8/29 (大阪)
- 4 8 吉野琢哉 治療に難渋した CD 症例 IBDExpertseminar 2016/9/1
- 4 9 森 義治胃 ESD における multi-bendingscope の有用性 OK 勉強会 2016/6/22
- 5 0 森 義治、伊藤嵩志、工藤 寧、栗田 亮、八隅秀二郎 症例提示 第 17 回近畿超音波内視鏡研究会 2016/7/16 (大阪)
- 5 1 内田洋一朗、寺嶋宏明、松原弘侑、後藤 徹、三木晶森、大野 龍、岡本拓也、山本健人、堀口雅史、上田修吾、金澤旭宣、山下大生、西村 聡、工藤 寧、栗田 亮、八隅秀二郎 診断・治療に難渋した胆道神経内分泌癌再発の 2 症例 第 4 回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 2016/9/24 (東京)
- 5 2 山内淳嗣 胃癌の内視鏡診断と治療 北野病院消化器センター K2-NET 2016/7/28 (大阪)
- 5 3 吉野琢哉 クロウン病における抗 TNF 製剤の最適化—自験例による検討— IBDExpertMeeting 2016/9/15
- 5 4 山川康平、伊藤嵩志、工藤 寧、栗田 亮、八隅秀二郎、内田洋一朗、寺嶋宏明、松崎直美、弓場吉哲 Rokitansky-Aschoff 洞から漿膜下層に微小浸潤を来した胆嚢腺筋腫症合併胆嚢癌の 1 例 第 65 回日本消化器画像診断研究会 2016/9/23-24 (福岡)
- 5 5 森 義治、伊藤嵩志、工藤 寧、栗田 亮、八隅秀二郎 興味深い主膵管狭窄を来した膵癌の 1 例 第 65 回近畿膵疾患談話会 2016/10/15 (大阪)
- 5 6 八隅秀二郎 膵癌の早期診断を目指した医療連携 第 65 回日本消化器画像診断研究会イブニングセミナー 2016/9/23 (福岡)

平成28年度年報 消化器センター内科

- 5 7 福永豊和 変わりゆく C 型肝炎治療 北区北薬剤師会生涯教育研修会
2016/10/8 (大阪)
- 5 8 吉野琢哉、ShujiroYazumi The role of immunomodulator for IBD treatment
IBD Influximab Users Meeting 2016/12/1
- 5 9 渡辺昌樹、尾松万悠紀、山下大生、秋山慎介、山川康平、菌 誠、森 義治、渡
邊幸太郎、西村 聡、伊藤嵩志、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、吉野琢哉、福
永豊和、川口清隆、八隅秀二郎
当院におけるレジパスビル・ソホスブビル配合剤の使用経験 第 6 回肝疾患治
療研究会 2016/12/20 (大阪)
- 6 0 山内淳嗣 大腸癌の内視鏡治療について 今の大腸癌治療戦略を考える会
2016/12/2 (大阪)
- 6 1 栗田 亮 ENBD 造影の基本とコツ 大阪早期膵癌発見プロジェクト勉強会
2017/1/20 (大阪)
- 6 2 森 義治、伊藤嵩志、工藤 寧、栗田 亮、八隅秀二郎 膵尾部癌の 1 例 大
阪早期膵癌発見プロジェクト勉強会 2017/1/20 (大阪)
- 6 3 山下大生 第 19 回 Northern Osaka Liver Disease Conference 2017/2/16(大阪)
- 6 4 菌 誠 Borderline resectable の膵癌に対して術前化学放射線療法により完全
寛解が得られた一例 第 1 回京都大学消化器内科学術交流会 2017/1/28 (京都)
- 6 5 秋山慎介 症例検討 第 16 回 MH 関西胆膵画像診断勉強会 2017/3/4 (大阪)
- 6 6 八隅秀二郎 膵臓遺伝性腫瘍セミナー 2017/2/12 (大阪)
- 6 7 栗田 亮 胆道疾患の画像診断 第 132 回大阪超音波研究会 2016/9/21 (大阪)
- 6 8 栗田 亮 BONA stent M-Intraductal の使用現状について JDDW2016 メ
ディコスヒラタブースカンファレンス 2016/11/4 (神戸)
- 6 9 栗田 亮 胆道疾患の画像診断 第 11 回滋賀胆膵若手内視鏡医の会
2016/11/25 (滋賀)
- 7 0 栗田 亮(座長) 第 13 回 MH 関西胆膵画像診断勉強会 2016/6/4 (大阪)
- 7 1 栗田 亮(座長) 第 7 回大阪 FNA-Club 2016/7/2 (大阪)
- 7 2 八隅秀二郎(座長) 北野病院消化器センター K2-NET 2016/7/28 (大阪)
- 7 3 八隅秀二郎(座長) 外科医が行う膵癌の早期診断と治療 大阪市北部早期膵
癌発見プロジェクト 2016/10/21 (大阪)
- 7 4 八隅秀二郎(座長) Endoscopy “Others2” APDW2016 2016/11/2-5 (神戸)

平成28年度年報 消化器センター内科

- 7 5 八隅秀二郎(座長) 胆道 (良性疾患 (機能性疾患含む)) 2 JDDW2016
2016/11/3-6 (神戸)
- 7 6 吉野琢哉(座長) 消化器 4 日本内科学会近畿支部主催 第 214 回近畿地方
会 2016/12/3 (大阪)
- 7 7 八隅秀二郎(座長) ERCP 診断・治療の基本と riskmanagement 第 30 回
日本消化器内視鏡学会近畿セミナー 2016/12/4 (大阪)
- 7 8 八隅秀二郎(座長) 第 6 回肝疾患治療研究会 2016/12/20 (大阪)
- 7 9 八隅秀二郎(座長) Session1 今の大腸癌治療戦略を考える会 2016/12/2 (大阪)
- 8 0 吉野琢哉(座長) RA 領域における TreattoTarget～免疫原性を踏まえて～IBD
Remicade User's Meeting 2017/1/26 (大阪)
- 8 1 八隅秀二郎(座長) 大阪早期膵癌発見プロジェクト勉強会 2017/1/20 (大阪)
- 8 2 八隅秀二郎(座長) 胆膵領域における診断と治療の新たな展開 日本消化器
病学会近畿支部 第 106 回例会 2017/2/25 (大阪)
- 8 3 八隅秀二郎(座長) 第 6 回大阪胆膵内視鏡ライブ 2017/2/18 (大阪)
- 8 4 吉野琢哉(座長) 若年、非便秘者における経口腸管洗浄剤 (モビプレップ) の
洗浄効果、時間についての検討 大腸内視鏡の前処置を考える会 2017/2/2(大阪)
- 8 5 吉野琢哉(座長) IBD 講演会 2017/1/26 (大阪)
- 8 6 吉野琢哉(座長) 炎症性腸疾患 第 37 回日本アフェレシス学会学術大会
2016/11/25-27 (横浜)

論文

- 1 Akira Kurita, Yuzo Kodama, Yuji Nakamoto, Hiroyoshi Isoda,
Sachiko Minamiguchi, Kenichi Yoshimura, Katsutoshi Kuriyama, Yugo Sawai,
Norimitsu Uza, Etsuro Hatano, Shinji Uemoto, Kaori Togashi, Hironori Haga,
Tsutomu Chiba Impact of EUS-FNA for preoperative para-aortic lymph node
staging in patients with pancreatobiliary cancer GASTROINTESTINAL
ENDOSCOPY 2016;84(3):467-475.e1
- 2 Ken Kamata, Masayuki Kitano, Satoru Yasukawa, Masatoshi Kudo,
Yasutaka Chiba, Takeshi Ogura, Kazuhide Higuchi, Nobuyasu Fukutake,
Reiko Ashida, Tomoaki Yamasaki, Hiroko Nebiki, Satoru Hirose, Noriyuki Hoki,
Masanori Asada, Shujiro Yazumi, Makoto Takaoka, Kazuichi Okazaki, Fumihiro
Matsuda, Yoshihiro Okabe, Akio Yanagisawa Histologic diagnosis of pancreatic
masses using 25-gauge endoscopic ultrasound needles with and
without a core trap: a multicenter randomized trial Endoscopy
2016;48(7):632-638
- 3 Koichiro Kawano, Reiko Kawano, Takanori Harada, Shujiro Yazumi Successful
endoscopic submucosal dissection of a rectal laterally spreading tumor causing
intussusception GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY2016 Online

- 4 Takuya Yoshino, Makoto Sono, Shujiro Yazumi Usefulness of sulfasalazine for patients with refractory-ulcerative colitis BMJ Open Gastro2016;3(1):000103
- 5 Yojiro Sakuma, Yuzo Kodama, Yuko Sogabe, Yoshitaka Nakai, Yukitaka Yamashita, Sakae Mikami, Kozo Kajimura, Kazuki Ikeda, Hiroyuki Tamaki, Satoru Iwamoto, Fumihiko Matsuda, Koichi Fujita, Norimitsu Uza, Takashi Kawamura, Shinji Uemoto, Hiroshi Seno, Tsutomu Chiba, Shujiro Yazumi Diagnostic performance of a new endoscopic scraper for malignant biliary strictures: a multicenter prospective study GASTROINTESTINAL ENDOSCOPY 2016;85(2):371-379
- 6 Kohei Yamakawa, Takuya Yoshino, Kotaro Watanabe, Koichiro Kawano, Akira Kurita, Naomi Matsuzaki, Yoshiaki Yuba, Shujiro Yazumi Effectiveness of cyclosporine as a treatment for steroid-resistant Cronkhite-Canada syndrome: two case reports BMC Gastroenterology2016;16(123)
- 7 Haruka Okada, Yoichiro Uchida, Naomi Matsuzaki, Toru Goto, Satoshi Nishimura, Akira Kurita, Takafumi Nishimura, Shujiro Yazumi, Hiroaki Terajima A case of neuroendocrine carcinoma in the hepatic hilar lymph nodes concomitant with an adenocarcinoma of the gallbladder World Journal of Surgical Oncology 2016;14(284)
- 8 Takuya Yoshino, Hiroshi Nakase, Tomohisa Takagi, Shigeki Bamba, Yusuke Okuyama, Takuji Kawamura, Teruki Oki, Hirozumi Obata, Chiharu Kawanami, Shinji Katsushima, Toshihiro Kusaka, Tomoyuki Tsujikawa, Yuji Naito, Akira Andoh, Takafumi Kogawa Risk factors for developing colorectal cancer in Japanese patients with ulcerative colitis: a retrospective observational study-CAPITAL (Cohort and Practice for IBD total management in Kyoto-Shiga Links) study I BMJ Open Gastro 2016;3: e 000122
- 9 Hiroshi Nakase, Shinji Sakuma, Takumi Fukuchi, Takuya Yoshino, Kohta Mohri, Kohei Miyata, Hironori Kumagai, Ken-Ichiro Hiwatari, Kazufumi Tsubaki, Tetsuya Ikejima, Etsuo Tobita, Meiyong Zhu, Kevin J Wilson, Kay Washington, John C Gore, Wellington Pham Evaluation of a novel fluorescent nanobeacon for targeted imaging of Thomsen-Friedenreich associated colorectal cancer. International Journal of Nanomedicine 2016;12:1747-1755
- 10 Yorimitsu Koshikawa, Hiroshi Nakase, Minoru Matsuura, Takuya Yoshino, Yusuke Honzawa, Naoki Minami, Satoshi Yamada, Yumiko Yasuhara, Shigehiko Fujii, Toshihiro Kusaka, Dai Manaka, Hiroyuki Kokuryu Ischemic enteritis with intestinal stenosis Intest Res 2016;14(1):89-95

出版

工藤 寧、栗田 亮、八隅秀二郎
高齢者の急性膵炎、慢性膵炎内科系総合雑誌
Modern Physician モダンフィジシャン 株式会社新興医学出版社 36巻11号,2016

八隅秀二郎
大阪市北部早期膵癌プロジェクト KITANO REVIEW 29号,2016

八隅秀二郎
膵臓がん「早期発見」ガイド 週刊文春 1月26日号 P37-40,2017